

三井倉庫ホールディングス株式会社

< 妥当性確認の目的 >

DNV ビジネス・アシユアランス・ジャパン株式会社（以下、DNV）は、三井倉庫ホールディングス株式会社（以下、組織）より、会社の設計した貨物輸送チェーンに係る CO₂ 排出量算定サービス「MS CO₂ Analyzer」（以下、算定サービス）に関して、第三者として妥当性確認を依頼された。本確認業務の目的は、組織の算定サービスが算定及び報告基準に基づき適正に設計されているかについて確認し、独立した立場から意見表明することである。

< 妥当性確認の範囲 >

妥当性確認の範囲は、算定サービスにおける「CO₂ 算定業務手順書 v3.0」及び「算定結果レポート様式 v2.0」である。詳細は、次項を参照。

< 算定サービスの算定・報告及び妥当性確認の基準 >

妥当性確認の対象である算定サービスにおける算定及び報告の基準は、ISO14083:2023 及び下記の各ガイドラインを援用した組織の定めた方法及び手順である。一方、妥当性確認の基準は、ISO14064-3:2019 を基にした DNV の手順とした。

参照ガイドライン

- サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン Ver.2.4（環境省・経済産業省、2022）
- ロジスティクス分野における CO₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン Ver.3.2（経済産業省・国土交通省、2023）
- 温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver4.9（環境省・経済産業省、2023）
- Global Logistics Emissions Council (GLEC) Framework for Logistics Emissions Accounting and Reporting Version 2.0 (Smart Freight Centre, as of June 2023、以下 GLEC Framework)
- GUIDE FOR GREENHOUSE GAS EMISSIONS ACCOUNTING FOR LOGISTIC SITES Version: 1.0 (Fraunhofer, 2019)

< 妥当性確認のプロセスと方法論 >

DNV は、リスクアプローチ手法を用いて妥当性確認基準への適合性を評価した。関連する文書記録類及び提供された十分な証拠のレビュー、要員へのインタビュー、CO₂ 排出係数の適用を含む算定・報告方法のレビュー、サンプルデータを用いた算定サービスの計算結果によって妥当性が確認された。

< 妥当性確認意見 >

DNV の限定的保証水準に基づく意見として、組織の設計した算定サービスが、組織の採用した算定及び報告の基準を援用して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。留意事項は次項参照。なお DNV は、本確認業務に限らずグループレベルで組織と財務上の関連性がないことを表明する。

場所・日時： 日本・神戸、2023 年 9 月 27 日

DNV ビジネス・アシユアランス・ジャパン株式会社

Tsuyoshi Katori
Approved Verifier

Koichiro Tanabe
Technical Reviewer

Naoki Maeda
Managing Director

妥当性確認における算定方法の対象範囲

1. 輸送モード

		輸送モード						
		トラック	ドレイ	コンテナ船	航空便	鉄道	RoRo 船	内陸水路
燃料法	国内	○	○	—	—	—	—	—
	国際	—	—	—	—	—	—	—
燃費法	国内	○	○	—	—	—	—	—
改良トンキロ法	国内	○	○	—	—	—	—	—
従来トンキロ法	国内	○	○	—	—	—	—	—
トンキロ法	国内	○	○	○	○	○	—	○
	国際	○	○	○	○	○	○	○

2. 輸送拠点における保管

		輸送モード						
		トラック	ドレイ	コンテナ船	航空便	鉄道	RoRo 船	内陸水路
温度管理	無	○	○	○	○	○	○	○
	有	○	—	—	○	○	○	—

3. CO₂ 排出係数

国内 : ロジスティクス分野における CO₂ 排出量算定方法 共同ガイドライン Ver.3.2 (経済産業省・国土交通省、2023)
温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver4.9 (環境省・経済産業省、2023)
運輸部門における二酸化炭素排出量 (国土交通省、2023)

国際 : Global Logistics Emissions Council (GLEC) Framework for Logistics Emissions Accounting and Reporting Version 2.0 (Smart Freight Centre, as of June 2023)
Emission Factors from Cross-Sector Tools (GHG Protocol, 2017)

【留意事項】 ISO14083:2023 では、燃料の採掘・生産に係る CO₂ 排出量が考慮された CO₂ 排出係数の使用が求められている。しかしながら、本算定サービスの国内輸送算定においては、排出係数に燃料の上流工程に係る CO₂ 排出量は含まれていない。これは、日本国内において前述の要求事項を満たす入手可能な CO₂ 排出係数が存在しないことによるものである。今後、この要求事項を満たす CO₂ 排出係数が入手可能になった際には、速やかに導入することが望ましい。なお ISO14083:2023 では、入手可能な最善の CO₂ 排出係数に燃料の上流工程に係る CO₂ 排出量は含まれていない場合には、報告書にその旨を記載することが求められており、本算定サービスの算定結果レポートでもその旨が記載されている。